

各種検査項目の説明

項目		解 説	項目	解 説	
身体計測		BMIは体格を判定する指数で体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で求められ、これが22前後の人が病気になりにくいと言われています。尚、BMIが25.0以上は肥満です。	肝 臓	GOT・GPT ALP・γ-GTP	急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変、胆石などで上昇します。 γ-GTPはアルコール性肝障害で上昇することが多いです。
腹 囲		男性85cm以上、女性90cm以上は内臓脂肪型肥満が疑われます。内臓脂肪は生活習慣病を発症させる率が非常に高いと言われています。		総ビリルビン LDH	ビリルビンは、黄疸の早期発見に役立ち、LDHは心臓、肺、肝臓、血液などの細胞の損傷で高くなります。但し、ビリルビン、LDHは体質的に高い場合もあります。
血 圧		血圧は、心臓が全身に血液を送り出すときに、血管の壁に与える圧力のことです。収縮期血圧(上の血圧)は、心臓が血液を送り出すために縮まったときの圧力で、血管に最も強い圧力がかかります。拡張期血圧(下の血圧)は、心臓が元に戻った時の圧力のことです。高血圧では血管に過度な圧力がかかり続けるため、動脈硬化が早く進行します。高血圧により動脈硬化や心臓への圧力が進行すると、心筋梗塞や脳梗塞、脳出血や大動脈瘤破裂などのような重大な病気が起こります。		コリンエステラーゼ	慢性肝炎や農薬中毒などで低下し、脂肪肝などで増加します。
				総蛋白・A/G比 アルブミン	血清蛋白にはアルブミンとグロブリンがあります。栄養障害やネフローゼ、肝硬変、血液疾患等で変動します。
尿	尿蛋白	たんぱく質は腎臓でろ過されたあと、尿細管で再吸収されるため、尿として排泄されるのはごくわずかです。尿中のたんぱく質が増加していると、腎臓の機能が低下している疑いがあります。腎炎、ネフローゼなどで陽性になります。	血 清	RF	リウマチをはじめとする様々な膠原病で高値になりますが、リウマチでなくとも高値となることもあります。
	尿潜血	尿中に血液が排泄される時は尿路の炎症(腎炎、膀胱炎、尿道炎等)や結石症、腫瘍などの病気が考えられます。		CRP	細菌やウイルス感染、炎症がないかを調べます。
腎	クレアチニン	老廃物の一種で腎臓の排泄機能が低下すると、血液中に増加します。クレアチニンは脱水や筋肉量が多い場合でも多く見られます。		RPR・TPPA	梅毒・肝疾患・膠原病、血栓症などのとき、陽性に出ることがあります。
	尿素窒素	腎臓病や脱水などで高値になります。	血 沈	炎症性の病気、貧血、がん、膠原病などで亢進します。	
尿 酸		腎機能の低下やアルコールの多飲、肥満でも上昇します。尿酸は、細胞が新陳代謝をした後に残る「燃えカス」で、細胞内のたんぱく質である「プリン体」から生じます。排泄が上手くいかないと、血液中に尿酸があふれ高尿酸血症から痛風や尿路結石、腎臓障害などが起こります。	前立腺	PSA	前立腺がんの腫瘍マーカーです。前立腺がんの他、前立腺肥大や前立腺炎等で上昇します。
			肺機能	%肺活量の低下は 拘束性肺疾患の疑い(間質性肺炎や肺線維症など)があります。 一秒率の低下は 閉塞性肺疾患の疑い(慢性気管支炎や気管支喘息など)があります。	
貧 血	赤血球 ヘモグロビン ヘマトクリット	鉄摂取不足による貧血や、胃潰瘍や痔、子宮筋腫、がんなどで出血している時、妊娠中や産後まもないときなどにも貧血になります。多血症は、ストレスや喫煙、肥満などが要因となることがあり、肺などの慢性疾患患者、腫瘍性疾患患者などにも起こりやすくなります。	便 検 査	便潜血	消化管からの出血の有無で大腸がんや大腸ポリープ等を見つけます。
	血小板	減少すると血液が固まりにくくなります。慢性肝炎、肝硬変などで減少することもあります。		視 力	近視、乱視などや、白内障があると低下します。
白 血 球		細菌感染症や腫瘍、白血病や炎症などで増加し、ウイルス感染等で減少することがあります。	眼	眼 圧	高値の場合、緑内障の可能性ががあります。
				眼底検査	眼底の血管を見て動脈硬化の程度を調べます。併せて緑内障や糖尿病性網膜症等の有無をみます。
糖 代 謝	尿糖・血糖 HbA1c 糖負荷試験	これらは糖尿病の早期発見のための検査です。血糖値が高い場合は、糖尿病が疑われます。また、HbA1cは長期(2~3ヶ月)の血糖値を反映し、糖負荷試験は糖尿病の診断に用いられます。高血糖が何年もの間治療されないまましていると、血管が傷ついて将来的に心筋梗塞や脳梗塞、失明や腎不全(人工透析)、足の切断といった糖尿病の慢性合併症が起きてしまいます。	聴 力		1000HZ(日常会話の音域)と4000HZ(高音域)を調べ、難聴などの有無をみます。
	総コレステロール	脂質は、食習慣、家族性、糖尿病、肥満、甲状腺疾患などに伴い変動します。	聴打診		心疾患、肺疾患、頸部の疾患等の有無をみます。
脂 質	HDLコレステロール	俗に善玉コレステロールとも呼ばれ、動脈硬化を予防します。肥満や運動不足、喫煙により低下します。	心電図	狭心症など、心筋障害の有無、心臓の位置異常、心肥大の有無、不整脈、心臓のなかの刺激の伝わり方、脈の速さや乱れの有無などをみます。	
	LDLコレステロール	俗に悪玉コレステロールとも呼ばれ、過食や高脂肪食、運動不足等で上昇します。上昇すると動脈硬化を促進させ、脳梗塞や心筋梗塞のリスクが高まります。		胸部レントゲン	結核、気管支炎、気管支拡張、肺気腫、肺がんの有無をみます。
	中性脂肪	食事やアルコールの過飲で上昇し、食後の値は不正確です。	喀痰細胞診	喀痰中の異常細胞(がん細胞など)の有無を調べます。	
	アミラーゼ	膵炎や膵癌(腫瘍)などで上昇します。	上部消化管	食道、胃、十二指腸のがん、潰瘍、ポリープなどの有無をみます。	
			腹部超音波	肝臓、胆嚢、腎臓などの腫瘍や結石、大動脈瘤の有無を検査します。	
			子 宮	内診により、子宮筋腫などの婦人科疾患の有無を診察し、併せて、子宮頸部の細胞を検査し、がんの有無を調べます。	
			乳 房	乳がんや乳腺腫瘍の有無を調べます。	